

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学大学院歯学研究科 災害医療歯科学講座法医歯科学 山口
里恵 に対する最終試験は、主査 有坂博史教授、副査 木本茂成教授、
副査 岩淵博史 准教授により、論文内容ならびに関連事項につき口頭試問
をもって行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 有坂 博史

副 査 木本 茂成

副 査 岩淵 博史

論文審査要旨

舌喉頭矯正術による乳幼児の睡眠、夜泣き改善評価

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

災害医療歯科学講座法医歯科学 山口里恵

(指導：山田 良広教授)

主査 有坂 博史 教授

副査 木本 茂成 教授

副査 岩淵 博史 准教授

論文審査要旨

舌喉頭偏位症（ADEL : Ankyloglossia with Deviation of the Epiglottis and Larynx）は、舌小帯の有無にかかわらず舌および喉頭の前上方への偏位による呼吸抑制と上気道抵抗の増加のため、乳幼児では、チアノーゼ・睡眠時無呼吸・寝つきが悪い・夜泣き・啼泣・抱き癖・反返り・腹部膨満・向き癖・身体が硬い・手足が冷たいなど多様な症状を呈する。それに対して、舌喉頭矯正術（CGL : Correction of the glosso-larynx）は、舌小帯およびオトガイ舌筋の前束の一部筋層を切除することにより、舌・喉頭が後下方へ降り呼吸が促進され、喉頭が直立し上気道の抵抗が改善するものである。

学位申請論文である「舌喉頭矯正術による乳幼児の睡眠、夜泣き改善評価」は、乳幼児の ADEL に対して行った CGL による乳幼児の睡眠と夜泣きの改善効果について検討した論文である。審査では、審査委員より主なものとして①測定期間、②コントロール群、③ADEL の診断基準、④CGL の術式、⑤学会での CGL に関する評価、⑥対象者年齢の区分け、⑦統計方法などについて意見が出され、論文内容の修正が行われた。

研究内容は、CGL を希望する乳児 19 名に対し、CGL 施術前と術後約 1 ヶ月に、母親に生活記録表と問診表を用いて啼泣時間、啼泣回数、夜泣きの改善効果について解析を行った。また生体加速計である腕時計型アクチグラフ（米国 AMI 社製）を用いて CGL 前後の睡眠覚醒リズムについて解析を行っている。解析の結果、CGL 後、総啼泣回数と総啼泣時間、夜間啼泣回数と夜間啼泣時間、1 回の平均啼泣時間いずれも有意に減少した。アクチグラフ解析の結果、CGL 後、Sleep Efficiency（睡眠効率）（ $p<0.01$ ）、Longest Sleep Episodes（最長の継続睡眠時間）（ $p<0.05$ ）は有意に増加し、Sleep Latency（入眠潜時）（ $p<0.01$ ）、Activity Index（体動活動指数）（ $p<0.05$ ）、Sleep Fragmentation（睡眠分断指数）（ $p<0.01$ ）、Wake after Sleep Onset（入眠後の覚醒時間）（ $p<0.01$ ）、Long Wake Episodes（睡眠中 5 分以上の覚醒回数）（ $p<0.05$ ）、Longest Wake Episodes（最長の覚醒時間）（ $p<0.05$ ）は有意に減少した。以上の結果から CGL は ADEL 乳幼児の啼泣、夜泣き、睡眠障害を改善することが示唆された。これまで、乳幼児に対する CGL による睡眠改善効果についての研究はなく、アクチグラフを用いて、その改善効果を立証できたことは、臨床的にも意義のある研究であると考えられる。

本審査委員会は、論文内容ならびに関連事項につき口頭試問を以って行われ十分な回答を得られることを確認した。そこで、本審査委員会は申請者が博士（臨床歯学）の学位に十分値するものと認めた。

